

# 中村小の芝生勉強会

中村芝生の基礎知識

## 目次

中村小の芝生  
芝生の特徴  
芝生の組み合わせ方  
WOSの基本的な作業  
芝生管理の心構え

芝生の病気事例  
芝生の害虫  
今後の作業  
雑草です

平成20年4月30日

PTA芝生協力委員会  
アゴラ造園株式会社 香取

## 中村小の芝生

中村小学校には現在 2 種類の芝生が入っています。

ペレニアルライグラス (寒地型芝 冬芝といわれるグループに入る)

ティフトン419 (暖地型芝 夏芝といわれるグループに入る)

という芝生です。

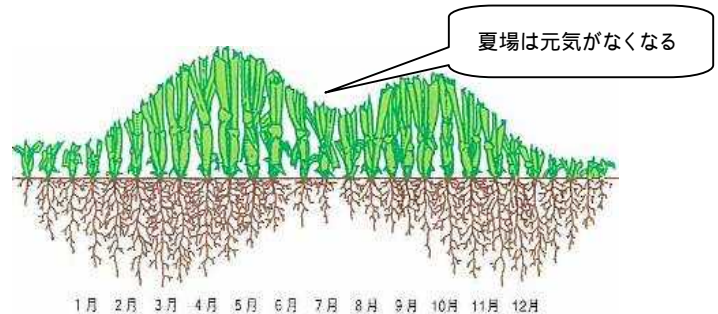
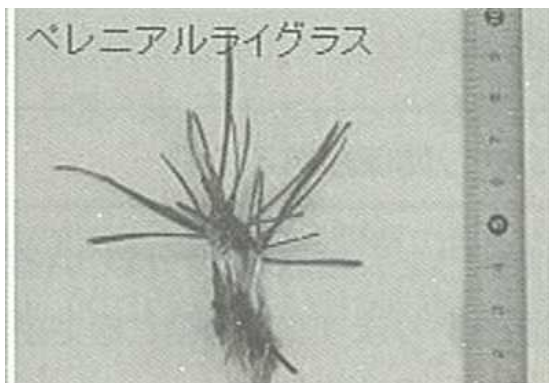
この二つの芝生をうまく組み合わせて(ウインターオーバーシード)一年中使える芝生の校庭を目指しています。

## 芝生の特徴

**ペレニアルライグラス(以下 PR)**は、生長が早く、涼しい場所を好む芝で、種を播いて1ヶ月程度で、使えるようになります(**種を播く時季に注意が必要**)。

PR が使用されている理由として、種を播いて養生をすればすぐ使えるようになる。生長が早く擦り切れても復活が早いなどの理由があります。

PR は春・秋に旺盛に生長し冬は鈍くなります。夏は生育障害を起こし枯れることもあります。

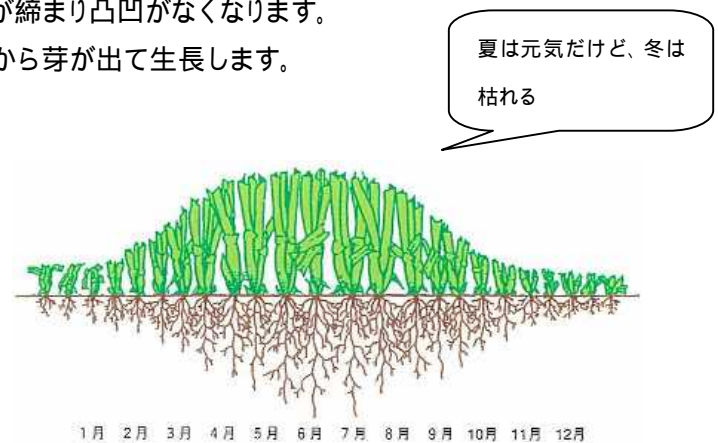
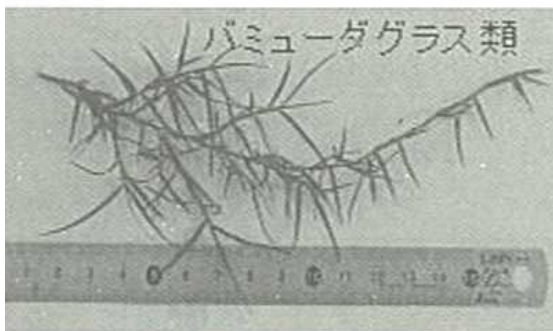


寒地型芝生の生長曲線グラフ

**ティフトン419(以下ティフトン)**は横に広がる芝生で、生長が早く、暑い場所を好みます。

ティフトンが使われる理由として夏の暑いときに生長するので、PR が元気のないときに、旺盛に生長し、横に匍匐しながら根を張るので、校庭の表面が締まり凸凹がなくなります。

ティフトンは冬、葉が枯れてしまい、翌春 茎の部分から芽が出て生長します。



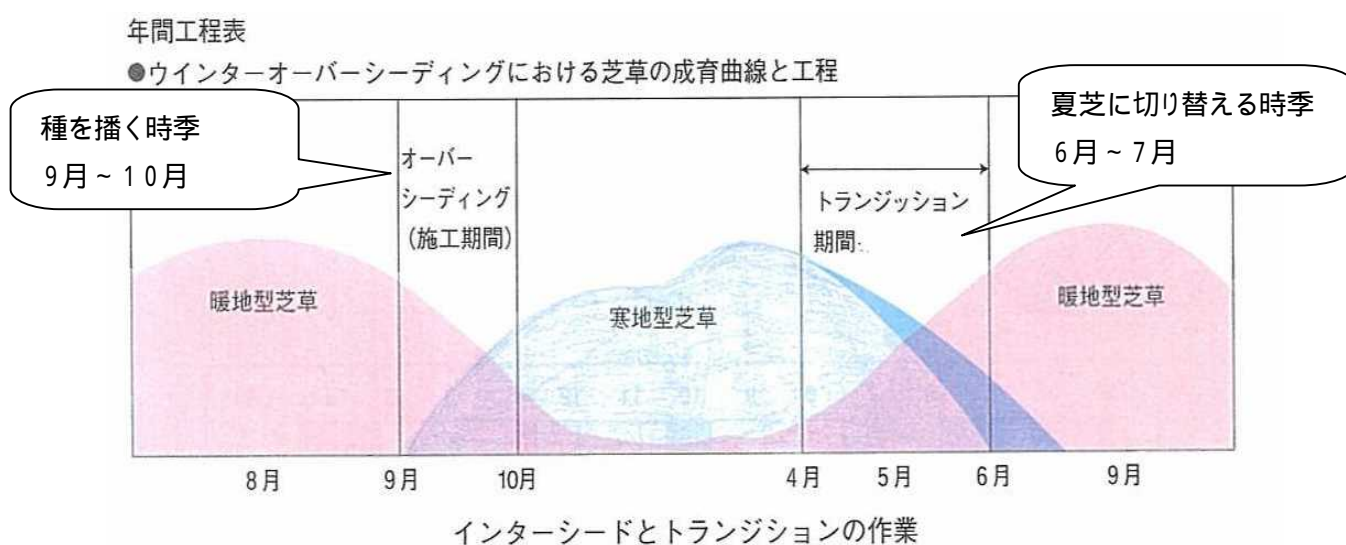
暖地型芝生の生長曲線グラフ

## 芝生の組み合わせ方(ウィンターオーバーシード)

芝生を一年中元気な状態を維持するために、PR・ティフトンを組み合わせ、生長させます。

PR は春・秋に元気がよく、夏の高温時には、弱って枯れてしまいます。反対にティフトンは夏の高温期に元気になり、冬には枯れてしまいます。この2種類の芝生の特徴を利用して、春・秋・冬はPR、初夏～初秋まではティフトンを使います。

このやり方を、**ウィンターオーバーシード** (以下WOS)といます。



中村小では平成19年7月にティフトンを植えつけて、WOSの工法を採用した芝生の校庭になりました。

## ウィンターオーバーシードの基本的な作業

WOSの作業は大きく2つあります。10月のオーバーシード、6・7月のトランジションがあります。

**オーバーシード(種まき)**は、10月にPRの種を播くことを言います。夏芝が元気がなくなった頃、これから生育が盛んな時期に入る冬芝の種を播き翌春までの芝生を作ります。作業は芝生に穴を開けるなどして、地面をやわらかくして、その上から種を播きよく芝生に馴染ませます。その後、目土を掛け1ヶ月ほどシートを張り養生をします。

**トランジション(切り替え作業)**は6～7月に行います。10月に播いたPRを6・7月に弱らせて、眠っているティフトンを起すための作業です。

ティフトンは、PR が元気な4月・5月から活動はしていますが、気温が低くそれほど旺盛な活動はしていません。また、PR が旺盛すぎて、ティフトンは行き場がなく、弱ってしまいます。6月・7月ごろになるとPR は徐々に元気がなくなってきます。その頃、PR を低く刈り込んだり、穴を開けたり、筋を切ったりして、ティフトンが入り込むスペースを開けてあげます。するとそのスペースに根を下ろし元気に新しい芽を出して繁茂し始めます。PR はドンドン弱っていくので夏のお盆の頃にはティフトンの芝生校庭になります。

10月頃、またPRの種を播き冬に備えます。これらの作業を毎年繰り返し行ないます。

## 芝生管理の心構え

芝生は生き物です、どんなに丈夫な芝、生長が早い芝を育てても、気候や、使用状況により、芝生は衰退したり、枯れたりします。使用が激しくなると、穴(デポット)が空いたり、芝生が擦り切れて土が剥き出しになってしまいます。このような時は出来るだけ早く直してあげた方が良いでしょう。

**19年7月より前の中村小の芝生は……**当初中村小は、冬芝3種混合の芝生を採用していました。PR・ケンタッキーブルーグラス(kBG)トールフェスク(TF)の三種類の芝生のことです。これらの芝生は総称して寒地型芝生(冬芝)といい、夏の暑さに弱く、すぐに病気になったり、生理的に枯れてしまったりします。病気には殺菌剤を散布していましたが、完全には抑えられません。そこでティフトン419という暖地型芝生(夏芝)をいれ、夏でも強い芝生になりました。

**ティフトンの植え付け方法……**ティフトンは種では増やせません。根の着いた茎の部分を地中に植えつけました。根が活着すると、茎の部分から新芽が出て生長し、地面を横に張って被覆します。日本の芝のように張り芝でも植えつけることが出来ます。気温が30度近くになると、非常に早く生長します。

メモ……

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



## 芝生の病気発生事例

冬芝は夏の暑さに弱く、病気に掛かりやすい芝生です。

ここでは、中村小で実際に発生した病気をご紹介します。

- さび病

葉の表面に鉄のさびのような赤褐色の病斑画発生します。春と秋に発生する病気で、菌によるものです。

この菌は気温が 17 ~ 22 が発育適温で、湿度を好みます。

芝生をよく刈り込み、風通し良くして予防します。



- うどん粉病

うどん粉を撒いた様な病班を作ります。銹病と同じ時期に発生します。湿度とはあまり関係ない点が銹病と異なる点です。

やはり芝生をよく刈り込むことが、予防になります。

- はぐされ病(ブラウンパッチ)

芝生に雲形の黄褐色の病斑を作ります。この病原菌は土壌病菌で地下部分より侵入して、地上部分を次々と枯死させる。条件がそろえば、一夜にして症状が出る。

温度が 20 以上になり、多湿になると発生するので、梅雨時が最も多く発生します。



## 芝生の害虫

芝生にも害虫が発生します。芝生の害虫をご紹介します。

- シバツトガ

芝生の代表的な害虫です。

体長が13mm 前後の白い蛾です。ティフトン芝と一緒に海外から入ってきたといわれています。年間3回程度の発生と言われています。

シバツトガは、幼虫の時に新芽の柔らかい部分を食害して被害をもたらします。



- スジキリヨトウ

別名芝ヨトウと呼ばれる芝草の重要な害虫です。

芝草がスポット状に枯れるので病斑と間違えられます。

成虫は体長が13mm 前後の比較的大きい蛾です。



## 今後の作業（3月～5月）

### 種まき 補植 部分養生を行い芝生を育てましょう・・・

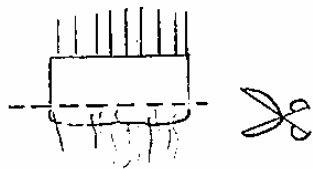
穴の開いた部分、砂が露出している部分には、種入りの砂を撒いたり、育成ケース ペット芝で補植をします。また、せっかく種を播いても養生しないでいるとすぐに踏まれて、芝生の芽が死んでしまうので、可能な限り養生をして、小さい芝生を育てます。

（業者作業・・・全面の播種、目土、養生を可能な限り行ないたいと考えています。）

#### 補植の方法

よくやっている補植の方法を改めてご紹介します。春先にはこのような方法で穴の開いた場所を補植してください。

#### 1 苗の切り取り



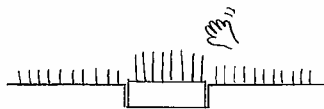
補植用苗を、育成ケース、ペット芝から取り出す。余分な根や雑草を取り除き、成形する

#### 2 植え穴掘削



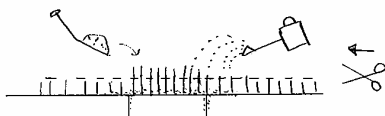
補植する箇所は、切り取った苗より少し浅めに穴を掘る

#### 3 植え付け



苗を入れて手や脚でよく叩き、周りの地面とよく馴染み平らになるようにする。

#### 4 目砂・灌水



砂を撒き再度叩いて廻りの地盤と平らになるようする。空隙に砂が入るようにしっかりと水をやる。余分な芝生は刈り込む。

雑草です。見つけたら抜いて下さい。



スズメノカタビラ



メシバ



コニシキソウ



?



オヒシバ